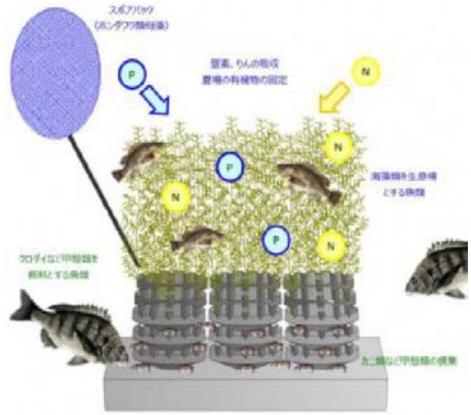


【1-12】

湾・灘の区分	大阪湾
取組の名称	「豊かな大阪湾」環境改善モデル事業
事業期間及び事業費	事業期間:令和元年度～継続中 事業費:2,066 千円(令和元年度)
事業体制	<p>【事業費用の補助並びに事業者と関係機関との調整】 大阪府環境農林水産部 環境管理室 環境保全課</p> <p>【事業実施及びモニタリング】 民間事業者等</p> <p>【関係機関として、必要に応じ連携及び情報共有】 大阪府港湾局や水産課・漁業関係者等</p>
事業の背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪湾の湾奥部は栄養塩類が滞留して貧酸素水塊が発生しやすく、また、生物の生息に適した場が少ないなどの課題がある。 ・これらを解決することが、湾全体の環境の保全・再生・創出を図る上で極めて重要。 ・「瀬戸内海の環境の保全に関する大阪府計画」では、沿岸域の環境の保全、再生及び創出が目標の一つ。 ・まちづくり事業や海岸・港湾事業と連携した、湾奥部の環境改善の取組促進のため、民間公募による環境改善モデル設備の試験設置を通じ、湾奥部における環境改善の知見の収集を行うとともに、湾奥部全域への取組み拡大の契機とする。
事業場所の詳細	 <p>《設置場所》 事業①:浜寺水路 事業②:泉大津旧港</p>

<p>事業内容</p>	<p>大阪湾の湾奥部が抱える課題を解消するための「環境改善モデル設備」の設置について民間事業者等に公募を行い、その費用の一部を補助 →令和元年5月 28 日から7月2日まで公募を行ったところ、以下の2件の応募有り</p> <p>【事業①： コンクリートブロックを用いた水質の改善・生物生息の場の創出】</p>  <p>【事業②： 貝殻基質ユニットを用いた生物生息の場の創出】</p> 
<p>モニタリング(効果の確認方法)の概要</p>	<p>令和元年度に実験基質を設置。今後、モニタリングを以下のとおり実施予定。</p> <p>【事業①： コンクリートブロックを用いた水質の改善・生物生息の場の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[調査項目] <ul style="list-style-type: none"> ・アカモク(1年生)の生長における経年変化 ・実験基質1基あたりのアカモク繁茂量から、窒素(N)、リン(P)の吸収量換算 ・魚類の蝸集量(個体数・湿重量)における経年変化 ・甲殻類の蝸集量(個体数・湿重量)における経年変化 ・水質調査から藻類の着生しやすい条件の把握、水質改善効果の比較 ・[調査時期・頻度] 年間1回～2回程度 ・[調査場所] 浜寺水路 ・[調査地点数] 1か所 ・[モニタリング方法] 潜水士による構造物の目視・撮影・実験基質の引き上げ

(続き)モニタリング(効果の確認方法)の概要	【事業②:貝殻基質ユニットを用いた生物生息の場の創出】 <ul style="list-style-type: none"> ・[調査項目] 生物の生息状況の確認 ・[調査時期・頻度]年間1回～2回程度 ・[調査場所]泉大津旧港 ・[調査地点数]1か所 ・[モニタリング方法]VRカメラによる撮影・実験基質の引き上げ
取組による効果・影響の判断基準及びその結果等	令和元年度より実験基質を設置したため、現段階でモニタリング結果の実績無し。今後3年間かけて効果検証を行う。
現状での課題	設備の設置に際して、関係機関との調整に時間を要する点。
今後の予定等	令和2年度も引き続き事業実施予定。 モニタリング結果は、今後、イベント等での府民啓発のために活用予定。
取組事例についての発表資料等	瀬戸内海環境保全小委員会(第16回)資料
情報提供元	大阪府 環境農林水産部 環境管理室 環境保全課